

(仮称)彦根総合運動公園整備計画の検討状況等について

1 経過

- 平成 36 年の第 79 回国民体育大会および第 24 回全国障害者スポーツ大会の開・閉会式および陸上競技大会の会場を整備するため、隣接する金亀公園(彦根市管理)の区域を拡張し、現在の県立彦根総合運動場を第 1 種陸上競技場を備えた都市計画公園として再整備
- 平成 27 年 12 月から公園整備基本設計業務に着手し、公園の骨格となる施設配置、諸施設の形状、基盤施設、植栽等についての概略の設計を実施
- 平成 28 年 3 月末に Jリーグ等から「彦根地域では Jクラブが経営できる立地条件ではない」との考え方が示されたことを踏まえ、彦根城など周辺の歴史的・文化的な景観と調和した施設整備について、(仮称)彦根総合運動公園第 1 種陸上競技場建築検討懇話会(全 3 回開催)や県サッカー協会の意見を伺いながら、第 1 種陸上競技場の建築基本設計条件(案)を検討

2 (仮称)彦根総合運動公園整備基本設計(案)の概要

(1) 公園面積

約 21.8ha

(2) 主な施設

第 1 種陸上競技場(400m×9 レーン)、第 3 種陸上競技場(400m×8 レーン)、
庭球場(12 面)、緑の広場、駐車場(約 1,100 台)、駐輪場(約 380 台)

※別添(仮称)彦根総合運動公園整備基本設計の概要(案)参照

(3) 概算経費

200 億円程度の見込み(今後の公園整備実施設計や建築基本設計等の過程でさらに精査)

※内訳	第 1 種陸上競技場整備費	106 億円程度
	その他公園整備費、用地補償費等	94 億円程度

3 第 1 種陸上競技場の建築基本設計条件(案)について

(1) 基本コンセプト

- ① 誰もが利用したくなる競技場
- ② 歴史的・文化的な景観に配慮した競技場
- ③ 周辺地域に配慮し、長く愛される競技場
- ④ 安全・安心な競技場

(2) 第 1 種陸上競技場の規模

- ① 延べ床面積 約 23,000 m²
- ② 収容人員 15,000 人以上(芝生席を含む。)
- ③ 固定席数 メインスタンドに約 7,000 席を整備
- ④ スタンド屋根 メインスタンド、バックスタンドに屋根を設置
- ⑤ 照明設備 両スタンドの屋根に照明設備を整備(照明柱は設置しない。)
- ⑥ 諸室 更衣室、雨天走路、用器具庫、放送室、指令室、写真判定室、情報処理室、医務室、ドーピング検査室、ウェイト・トレーニング室、記者室など

(3) 設計にあたっての主な留意事項

① 彦根城をはじめとする歴史的な景観との調和

- ・競技場の高さを抑えること。
- ・競技場の周囲を樹木で囲んでボリューム感を抑えること。
- ・彦根城との連続性を考慮すること。
- ・彦根城天守から見下ろした際に競技場が突出しないこと。

② 彦根城天守からの景観に配慮した屋根の構造

- ・景観上支障となる照明柱をなくすため、スタンド両側とも屋根を架設し、屋根先に照明設備を設置すること。
- ・スタンド全面に屋根を架設することで座席等を隠すなどデザインについて、十分検討すること。

③ 周辺地域の景観や生活環境に配慮した照明設備

- ・照明柱は設置しないこと。
- ・両側スタンドとも光害の抑制が可能となる屋根先照明とすること。

④ 周辺地域に馴染む色

- ・周辺地域の豊富な自然に溶け込む色とすること。
- ・明度や彩度を低く抑え、彦根城を尊重する色とすること。
- ・外壁や屋根だけでなく、フィールドや座席等、競技場全体の色彩に配慮すること。

⑤ 自然素材の使用

- ・擬石や擬木より本物の素材（自然素材）をできるだけ使用すること。
- ・屋内仕上材等に県産材をできるだけ使用すること。

⑥ 公園整備との整合性

- ・建築と公園の整合がとれた景観とすること。

4 《住民参画》 みんなで考える公園づくりワークショップについて

新しい公園の使い方、楽しみづくりについて住民の皆さまからいただいたアイデアや意見を、より良い公園づくりに活かす。

(1) ワークショップ開催状況

回	日時	場所	テーマ
1	平成 28 年 6 月 18 日 (土) ・ 17 名参加	彦根総合運動 場スイミングセンター 大会議室	新しい公園でこんな事ができたらいいな
2	平成 28 年 7 月 23 日 (土) ・ 7 名参加		イメージをふくらませよう
3	平成 28 年 8 月 27 日 (土) ・ 9 名参加		こんな公園づくりをめざそう《取りまとめ》

(2) 主な意見

- ・専門的な競技スポーツだけでなく、県民が日常的にスポーツを気軽に楽しめる。
- ・いろいろな人が日常的にふらっと立ち寄り楽しめる。
- ・スポーツ教室、朝市、飲食イベント、防災訓練など様々なイベントが開催される。
- ・観光ルートに含み、観光客やサイクリングの人が立ち寄って楽しめる。
- ・彦根城や伊吹山、佐和山など歴史や自然景観が感じられる。
- ・ナイター設備を活用し、夜もスポーツができる。
- ・散歩やウォーキングをする。
- ・東側駐車場の一部を日常広場として利用できるとよい。
- ・金亀公園と一体的に利用する。

5 今後の予定

平成 28 年

- ・ 9 月末
- ・ 10 月頃
- ・ 10 月～

公園整備基本設計、建築基本設計条件の取りまとめ

滋賀県都市計画審議会付議（予定）

公園整備実施設計、第 1 種陸上競技場基本設計の発注手続開始

平成 29 年

- ・ 2 月頃

公園整備実施設計、第 1 種陸上競技場基本設計の契約予定

背景

- ▶ 滋賀県立彦根総合運動場を国体主会場の施設基準を満たす第1種陸上競技場を備えた公園として再整備するため、平成27年3月に公園整備基本構想を策定し、その後、平成27年8月に公園整備基本計画を策定。
- ▶ これらを踏まえ、公園整備計画の具体化に向け、各種設計条件との整合を図りつつ、特に彦根城の世界遺産の取組や地域活性化のほか防災機能の強化等にも配慮しながら、諸施設の設計指針を明らかにするとともに、施設配置や形状、基盤施設、植栽等について基本設計を取りまとめた。

公園のイメージ

◆体力・健康づくり、夢育ての場◆多様な主体の交流の場◆歴史・文化などとの触れ合いの場

公園整備の基本的な考え方

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

- A: 国体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化
- B: 国体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備
- C: 彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備

基本設計の方向性(1) 運動施設の整備水準

- 第1種陸上競技場 ①トラック・フィールド：400m×9レーン、フィールド内は多目的利用可能
②収容人員：15,000人以上(芝生席を含む。)、固定席数：メインスタンドに約7,000席
③延べ床面積：約23,000㎡ ④附属施設：メインスタンドおよびバックスタンドに屋根を設置、両スタンドの屋根に照明設備(照明柱は設置しない。) ⑤諸室：更衣室、雨天走路、用器具庫、放送室、司令室、写真判定室、情報処理室、医務室、ドーピング検査室、ウェイト・トレーニング室、記者室など
- 第3種陸上競技場 ①トラック・フィールド：400m×8レーン、フィールド内は多目的利用可能。
②附属施設：管理棟
- 庭球場 ①競技用砂入り人工芝コート12面
②附属施設：管理棟、スタンド(1,000人程度収容)、夜間照明灯設置
- 野球場(存置：現施設を継続して使用)

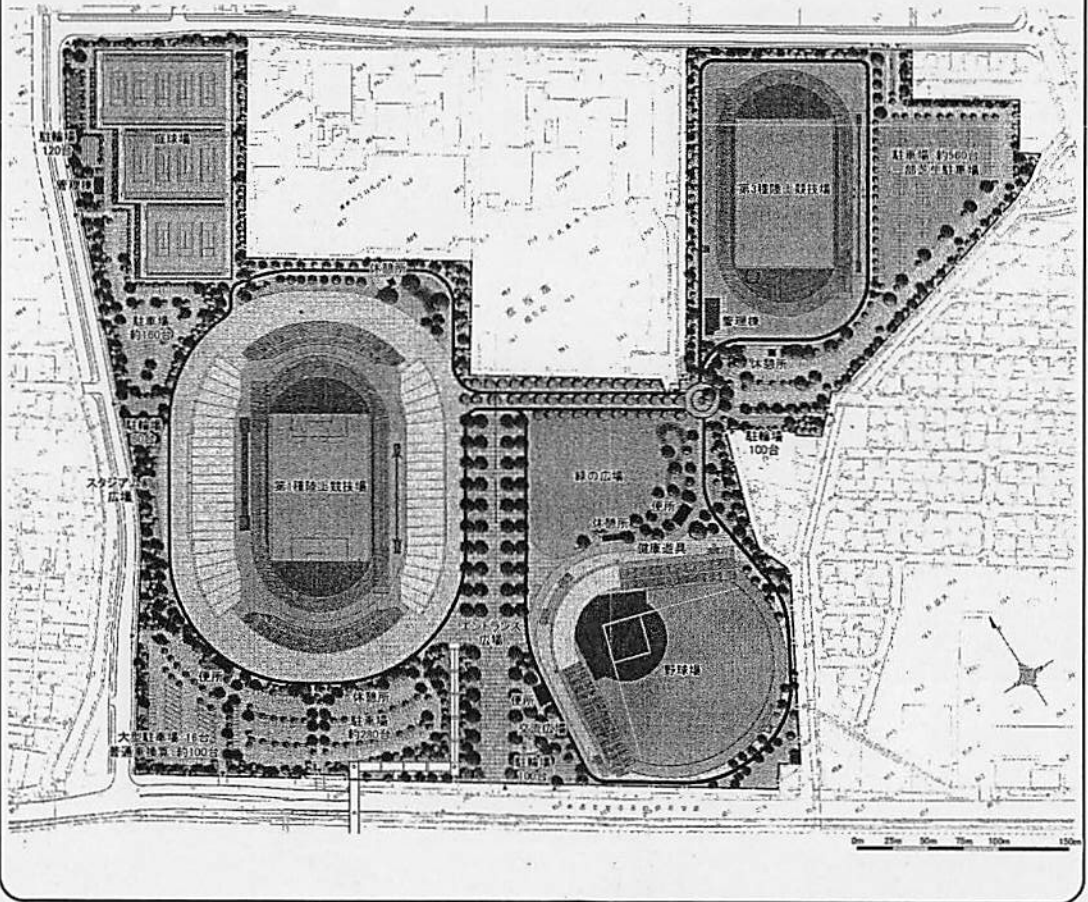
基本設計の方向性(2) 公園施設等

- 広場 エントランス広場や緑の広場などを配置。
- 園路 幹線園路(幹線園路幅15m程度以上、補助幹線園路幅6~3m)、散策路やジョギングコース(延長約2.5km)を配置。
- 駐車場・駐輪場 駐車場は約1,100台(一部芝生駐車場)、駐輪場は約380台を配置。
- 植栽 彦根山や女宮園と連続する植栽、周辺の住環境に配慮した植栽、見通しのよい植栽。
- 休養、サービス施設 場内各所に休憩所(4ヵ所)や便所(運動施設利用者用以外に単独棟3棟)。
- 遊戯施設 県民の健康づくりを目的に健康遊具を検討。

基本設計の方向性(3) 機能強化ほか

- デザイン 周辺景観に調和したデザイン、色調とする。
- 住民参画 ワークショップでいただいたアイデアのうち、芝生駐車場や水景施設などを取り入れて検討。
- 防災 緊急輸送機能、緊急消防援助機能、避難・備蓄機能を備えた防災公園として設計(例：第1種、第3種陸上競技場、野球場をヘリポート利用、一時避難所等)。10年確率降雨(時間雨量50mm程度)でも浸水しない地盤高で造成。
- 地域活性化・民間活力導入 整備段階：滋賀県産材を活用したベンチ等の整備、周辺観光施設等を含めたサイン設置。
運営段階：周辺のイベント(ご城下にぎわい市、ピワイチサイクルステーション等)との連携、スポーツ教室の開催、民間活力の導入(カフェ・サイクルショップ等)について引き続き検討
- 金亀公園との一体利用 金亀公園と一体的な利用ができるよう施設計画や役割分担を調整。連絡橋の配置や幅員等の概略検討を実施。
- 住環境に配慮した施設設計 建物の高さ抑制や、光害対策を施した照明器具、防犯に配慮した照明灯の設置等を計画、第1種陸上競技場の西側植栽地を拡幅するとともに遮蔽機能向上のため盛土を検討。

基本設計図(案) 公園面積21.8ha(現況約14ha)

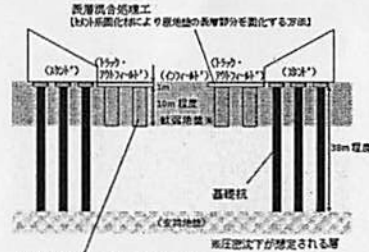


エントランス広場から彦根城を望む

(仮称)彦根総合運動公園整備基本設計の概要(案)

基本設計の方向性(4)地盤対策

○地盤対策 陸上競技場(第1種、第3種)のトラック・フィールド部分の地盤対策は、深層混合処理工法と表層混合処理工法を組み合わせる工法で実施。
第1種陸上競技場のスタンド建築部については、地盤調査の結果から38m程度の杭基礎を想定。
※今後、建築基本設計等において詳細に検討



深層混合処理工(地味率10%~15%)
【セメント系固化材と原地盤の軟弱土を攪拌・混合し柱状に固化する工法】
【①今址、詳細に検討を進める過程で変更となる可能性がある。】
第1種陸上競技場における地盤対策イメージ

基本設計の方向性(5)段階的整備、工事計画

○段階的整備 先催祭の事例等を踏まえ、国体開催時の機能や規模、配置等を想定したうえで段階的な公園整備計画を整理。なお、庭球場は国体・全国障害者スポーツ大会の開催後に整備。
○工事計画 工事は安全を最優先とし、東側拡張区域から工事着手。第3種陸上競技場、第1種陸上競技場競技場、緑の広場など公園部の順に実施。

公園整備スケジュール(案)

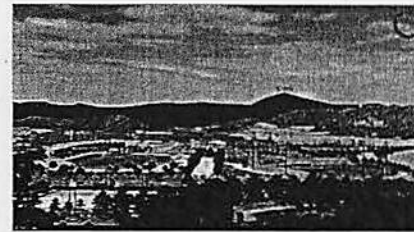
項目/年度	平成26年度(10年度)	平成27年度(11年度)	平成28年度(12年度)	平成29年度(13年度)	平成30年度(14年度)	平成31年度(15年度)	平成32年度(16年度)	平成33年度(17年度)	平成34年度(18年度)	平成35年度(19年度)	平成36年度(20年度)	平成37年度(21年度)	平成38年度(22年度)
都市公園設計計画(基本構想・基本計画)	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計
(公園設計)	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計	基本設計
都市計画決定													
公園敷地の拡張													
既存施設解体(スポーツ会館、プール、庭球場)													
(陸上競技場)													
(その他工務等)													
公園等整備(基礎工事、地盤対策工事)													
(第3種陸上競技場)													
(緑の広場、エントランス広場、交流広場、第1種外構など)													
(庭球場)													
建築施設計画設計(第1種陸上競技場)													
建築施設工事(第1種陸上競技場)													
供用開始準備													
住民説明													
住民参画(基本構想~実施設計)													
(施設整備)													
(管理運営)													
関係競技団体等との調整													

第1種陸上競技場の設計にあたっての主な留意事項

第1種陸上競技場建築検討懇話会を開催し(全3回)、第1種陸上競技場の仕様や形状、デザイン等に関する留意すべき事項について、有識者の意見を踏まえて取りまとめた。

設計にあたっての主な留意事項

- 彦根城をはじめとする歴史的な景観との調和
 - 競技場の高さを抑えること。
 - 競技場の周囲を樹木で囲んでボリューム感を抑えること。
 - 彦根城との連続性を考慮すること。
 - 彦根城天守から見下ろした際に競技場が突出しないこと。
- 彦根城天守からの景観に配慮した屋根の構造
 - 景観上支障となる照明柱をなくすため、スタンド両側とも屋根を架設し、屋根先に照明設備を設置すること。
 - スタンド全面に屋根を架設することで座席等を隠すなどデザインについて、十分検討すること。
- 周辺地域の景観や生活環境に配慮した照明設備
 - 照明柱は設置しないこと。
 - 両側スタンドとも光害の抑制が可能となる屋根先照明とすること。
- 周辺地域に馴染む色
 - 周辺地域の豊富な自然に溶け込む色とすること。
 - 明度や彩度を低く抑え、彦根城を尊重する色とすること。
 - 外壁や屋根だけでなく、フィールドや座席等、競技場全体の色彩に配慮すること。
- 自然素材の使用
 - 擬石や擬木より本物の素材(自然素材)をできるだけ使用すること。
 - 屋内仕上材等に県産材をできるだけ使用すること。
- 公園整備との整合性
 - 建築と公園の整合がとれた景観とすること。



彦根城天守からの眺望イメージ



第1種陸上競技場の鳥瞰イメージ

概算事業費

200億円程度の見込み(今後の公園整備実施設計や建築基本設計等の過程でさらに精査)

※内訳 第1種陸上競技場整備費 106億円程度
その他公園整備費、用地補償費等 94億円程度

(仮称)彦根総合運動公園 利活用の方向性 ～ワークショップで考えました(案)

公園整備の基本的な考え方 ～基本計画より

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

A: 国体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化

交通アクセスの良さを活かして、県民のスポーツ拠点として整備を行い、日常的にスポーツを楽しむことができる。

B: 国体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備

だれもが気軽に、そして安全に安心して利用でき、健康づくりに寄与する公園を整備する。また、環境に配慮し、防災機能の強化を図るとともに、観光資源や地場産業との連携による地域活性化に寄与する公園整備に向けて住民参画のもと取り組む。

C: 彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備

世界遺産登録を目指す彦根城など歴史的・文化的な景観に調和した公園を整備する。また、公園整備にあたり、周辺の住環境に配慮した施設計画に取り組む。

通常時の公園利活用の基本的な考え方 ～ワークショップで考えた公園利活用の方針

誰もが自由に楽しめる公園

スポーツ拠点としてさまざまなスポーツ・運動をするだけでなく、誰もが日常的に立ち寄り、自由に楽しめる公園としてほしい。また、観光客やサイクリングの人など、県外の人も立ち寄って彦根を楽しめる公園としてほしい。

気軽にスポーツを楽しめる公園

スポーツ・運動

- 陸上競技場や庭球場、金亀公園の多目的広場では、専門的な競技スポーツをするだけでなく、県民が日常的に、いろいろなスポーツや運動を気軽に楽しんだり、練習できる公園
- 各利用団体の会議等にも対応

日常的にふらっと立ち寄れる公園

日常の自由利用

- 緑の広場でピクニックをしたり、ボール遊びや遊具遊びをしたり、バーベキューをしたり、ジョギングをしたり、部活帰りに立ち寄るなど、いろいろな人が日常的にふらっと立ち寄り、思い思いに楽しめる公園

様々なイベントを実施し、多くの人々が訪れる公園

イベント

- 陸上競技場や広場などで、地域のイベントやマルシェ、朝市、運動会、防災訓練、大規模な飲食イベント、お城まつり規模のイベントなど県内外の人が行きたくなるさまざまなイベントが開催される公園
- 収益にもつなげる

彦根城や水辺周遊と一体的に観光利用ができる公園

観光・周遊

- 彦根城などの歴史文化遺産や日本遺産に認定されている「琵琶湖とその水辺景観」等を活かし、公園を観光ルートや周遊コースに含みながら、観光客やサイクリングの人が立ち寄って、憩い、楽しむ公園

彦根らしい四季・自然・景観を感じる公園

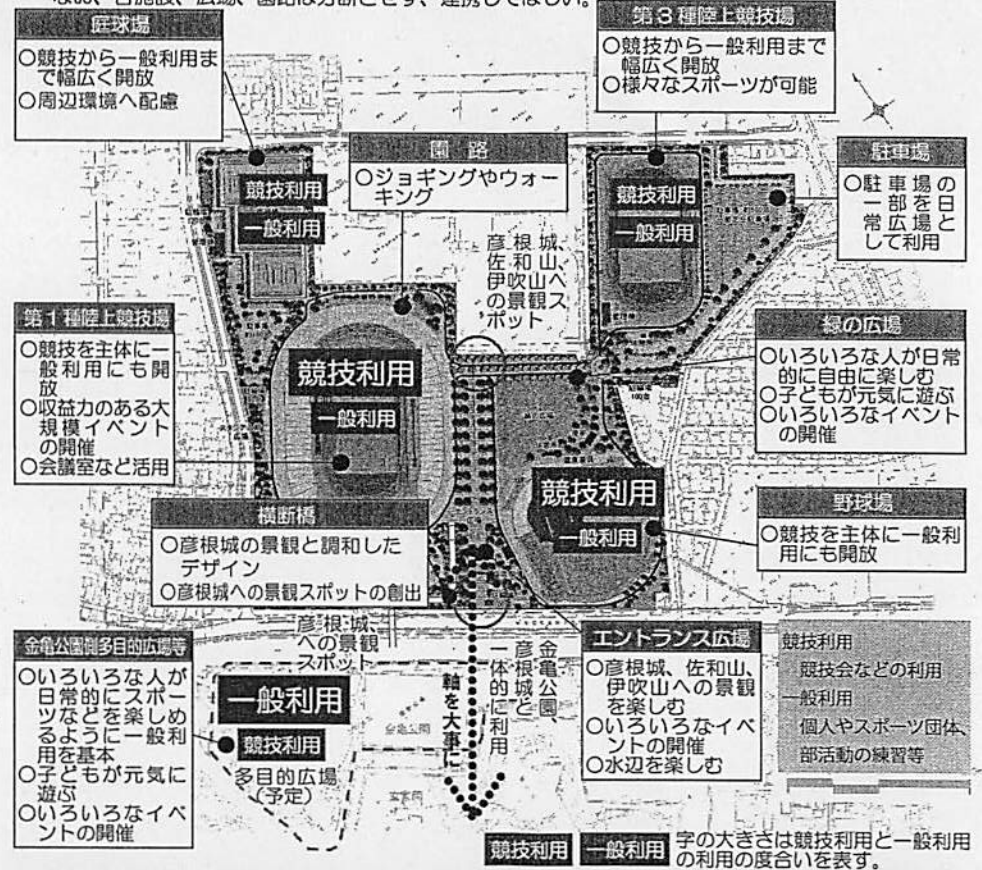
自然・景観

- サクラや紅葉など四季が感じられる豊かな緑に加え、彦根の景観を特徴づける彦根城や伊吹山、佐和山など、歴史や自然景観を魅力的に感じられる公園

公園の利用分担イメージ ～金亀公園・彦根城との一体的な利用

より多くの人に使ってもらえる、彦根の代表的な公園とするため、金亀公園・彦根城と一体的に利用できる公園としてほしい。また、一般利用に関しては金亀公園との役割分担を明確にし、利用方法の住み分けを調整してほしい(多目的広場の利用など)。

なお、各施設、広場、園路は分断させず、連携してほしい。



誰もが、日常的に楽しめる公園にするために ～使いやすくするための工夫

誰もが、日常的に楽しめる公園とするため、金亀公園と一体的に以下のような整備・運営の工夫を検討してほしい。

- ★見通し良く、オープンにし、安全で入りやすい雰囲気づくり
- ★彦根城を活かしつつ、調和した景観づくり
- ★天然だけでなく、養生期間が必要ない土や人工芝などの場の検討
- ★園路に距離表示を設置
- ★バリアフリーに対応した公園
- ★民間活力の導入により、県内外の人を呼び込めるカフェやサイクルステーションなどの施設整備
- ★普段の多目的利用など使い勝手のよい駐車場
- ★ボール遊びも含めて、安全にさまざまな利用ができるようなルールづくり